

明日香村埋蔵文化財展示室概要

西光 慎治

1. はじめに

明日香村埋蔵文化財展示（以下、埋蔵文化財展示室）は文化財課が平成9年に明日香村役場二階（明日香村大字岡55番地）にあった事務所機能を旧飛鳥幼稚園舎（明日香村大字飛鳥112）へと移転を行った。当時、文化財課には文化財係と埋蔵文化財室があり、村内の発掘調査や文化財全般にわたる業務を担っていた。事務所移転に伴い、遺物整理室並びに遺物収蔵機能を合わせもつこととなり、これを契機にこれまで明日香村教育委員会が実施した発掘調査において出土した遺物を展示・公開するスペースを併設することとなった。展示室開設にあたっては関西大学名誉教授で明日香村名誉村民である網干善教先生のご尽力で関西大学博物館から展示ケースの寄贈とさらに間 貢氏（高取町清水谷）や大和ガス（大和高田市）からの御寄附を受け、平成11年2月26日（金）に旧飛鳥幼稚園のリズム室を改装し、明日香村埋蔵文化財展示室が開館した。オープン当初は平日のみの開館であったが、来訪者の増加に伴い土日祝祭日も開館することとなった。休日の開館は文化財課職員が輪番で対応にあたっていたが来訪者の利便性を高めるため、飛鳥京観光協会所属のボランティアガイドによる定点ガイドを行い、好評を得ている。平成17年8月にはオープン以来の展示内容等の一部リニューアルを行い、さらに平成26年1月18日（土）には展示ケースの老朽化に伴い、すべての展示ケースと遺物等の展示替えを行い、リニューアルオープンした。

2. 展示概要

ここでは平成11年のオープンから平成25年11月まで行われていた展示のコンセプトや企画展の内容等について紹介する。

【展示内容】

展示構成については三つに区分されており、縄文時代から中世までの土器等を年代順に並べた通史、キトラ古墳や酒船石遺跡・八釣東山古墳群を中心としたテーマ展示、最新の調査成果を展示する速報展示である。特にキトラ古墳石槨復元模型は注目される展示となった。速報展示は近年の発掘成果を中心に、最新情報を提供することに主眼を置いており、出土遺物・パネル等を随時入れ替えを行い、また企画展の開催や展示解説などのリーフレットを作成し、展示内容の理解や利便性を高めた。

【企画展の開催】

埋蔵文化財展示室では過去に春期企画展を開催している。主な企画展の内容については以下の通りである。

（1）平成18年春期企画展

展示テーマ 「発掘する道具たち」

展示期間 平成18年4月9日（日）～5月28日（日） 土日開館 入館無料

企画展担当 明日香村教育委員会 技師 高橋幸治
展示内容 飛鳥地域では日々発掘調査が行われ、時には歴史を塗り替えるような大発見があることも少なくない。企画展では発掘調査の手順や方法、更に調査で使用する発掘道具にスポットをあて、スコップやジョレン、テミヤ竹バラなど約30点を展示し、実際に道具に触れていただくことで埋蔵文化財や発掘調査に興味や関心を持っていただけるように企画した。

(2) 平成19年春期企画展

展示テーマ 「飛鳥を翔けぬけたとき－網干善教先生追悼展－」
展示期間 平成19年4月14日(土)～5月27日(日) 上日開館 入館無料
企画展担当 明日香村教育委員会 技師 西光慎治
展示内容 飛鳥地域で長年にわたり発掘調査に携わり、高松塚古墳や川原寺裏山遺跡など重要な調査を多く手がけた関西大学名誉教授で明日香村名誉村民でもある網干善教先生のこれまでの足跡を一周忌にあわせた企画展である。展示には網干先生の時計やカメラ、万年筆や手帳などの愛用品を中心に高松塚古墳壁画発見時の調査日誌や自筆の短歌などを展示するほか網干先生の生前の講演会の様子などをおさめたビデオの上映も行った。あわせて先生が調査を担当された高松塚古墳の発掘当時の写真パネルや川原寺裏山遺跡の埴物や塑像など総数約121点を展示し、在りし日の網干先生をしのいだ。

(3) その他、

パネル展として高松塚古墳(担当相原嘉之)や森本富雄展(担当長谷川透)なども開催している。

【展示リーフレットの発行】

埋蔵文化財展示室では展示内容などを理解していただくことを目的として年に2部ずつリーフレットを作成している。これまで発行したリーフレットは以下の通りである。

- 1、「坂田寺跡の最近の調査」(平成15年)企画展示資料No.1
- 2、「発掘する道具たち」(平成18年)企画展示資料No.2
- 3、「発掘調査報告書のつくりかた」(平成18年)企画展示資料No.3
- 4、「牽牛子塚古墳の閉塞石」(平成19年)展示資料解説No.1
- 5、「酒船石遺跡の湧水施設」(平成19年)展示資料解説No.2
- 6、「特別史跡高松塚古墳の発掘調査①」(平成20年)企画展示資料No.4
- 7、「特別史跡高松塚古墳の発掘調査②」(平成20年)企画展示資料No.5
- 8、「竹野王石塔」(平成21年)展示資料解説No.3
- 9、「小治田宮の井戸」(平成21年)展示資料解説No.4
- 10、「飛鳥時代の二つの土器」(平成22年)展示資料解説No.5
- 11、「小治田宮の土器」(平成22年)展示資料解説No.6
- 12、「飛鳥寺の創建瓦～「花組」と「星組」」(平成23年)展示資料解説No.7
- 13、「檜隈寺の甍」(平成23年)展示資料解説No.8
- 14、「川原寺の埴仏」(平成23年)展示資料解説No.9



明日香村埋蔵文化財展示室 外観



明日香村埋蔵文化財展示室 内部（リニューアル前）

【展示替え】

平成17年8月、オープン以来の展示レイアウトや遺物等の一部展示替えを実施した。主な内容は以下の通りである。

（1）改修内容

- ・展示室の照明の増設（8基から17基へ）
- ・展示ケースの照明設置

（2）展示内容

- ・出土遺物495点、模型2点、パネル60点

（鳥庄遺跡出土遺物・牽牛子塚古墳出土夾紵棺、雷丘東方遺跡出土井戸枠、飛鳥京跡出土漆壺他）

3. リニューアルオープンまでの経緯

平成11年2月の開館以来、多くの来訪者が埋蔵文化財展示室を訪れており、またリピーター率が高く、展示資料についても随時更新を行い、来訪者の利便性を高めていた。しかし、15年の歳日が流れ、展示ケースの老朽化が目立ちはじめたため展示ケースをすべて入れ替え、展示内容も一新することとなった。そこで平成25年12月2日（月）から平成26年1月17日まで埋蔵文化財展示室を休館にし、これまで使用していた展示ケースを12月中旬に解体処分を行った後、展示ケースの搬入を行い、組立て作業を経て12月27日（金）に展示ケースに関する作業が終了した。年が明けた平成26年1月6日からは展示のレイアウト、並びに遺物の陳列、展示パネルの作成等の作業を1月17日（金）までの実働12日間で行った。平成26年1月18日（土）には埋蔵文化財展示室のリニューアルオープンを行い、早朝から多くの見学者が訪れた。また、1月23日（木）には飛鳥京観光協会所属のボランティアガイドの皆さんに展示内容やコンセプト、そして遺物等について理解を深めていただくための研修を実施し、約30名の参加があった。今回、埋蔵文化財展示室のリニューアルについては明日香村広報紙をはじめ、明日香村役場オフィシャルホームページ等へ掲示を行い、周知に努めた。さらに、平成26年2月14日（金）10時から埋蔵文化財展示室において、リニューアルオープンの記者発表を行い、檀原市政記者クラブから朝日新聞社・読売新聞社・産経新聞社・毎日新聞社・奈良新聞社の参加があった。

今回のリニューアルにあたっては展示ケースのレイアウトから展示のコンセプト・遺物の陳列・パネル製作などを明日香村教育委員会主任技師の西光慎治と同技師長谷川透が担当し、上田小也香、上田裕人、辰巳俊輔がこれを補佐した。また展示パネルの古代復元画は早川和子氏によるものである。

4. 展示概要

ここでは展示ケースの入れ替えに伴い、リニューアルを行った内容について説明していく。

【展示コンセプト】

「東アジアの中の飛鳥～日本国誕生の軌跡～」

【展示内容】

飛鳥地域は飛鳥川を中心に縄文時代から弥生・古墳・飛鳥といった各時代の人々が生活を営んできた。特に、飛鳥時代には都が設置され約100年間、政治・経済の中心となり、国内外から様々な文物や文化がもたらされた。そして中国や朝鮮半島の動向と連動して律令国家としての体裁を整えるようになり「日本国」が誕生した。明日香村埋蔵文化財展示室では「日本国」誕生に迫ることができる村内の多くの遺跡や出土遺物を通じて飛鳥前史、飛鳥時代通史、宮殿、官僚・税制、工房・貨幣経済、都市計画、寺院、古墳（奥津城）を中心に日本国誕生の謎に迫っている。特に飛鳥から始まった主な制度をもとに各展示ケースには内容を理解しやすいように遺物とパネルなど約600点の展示を行っている。

《飛鳥からはじまった主な制度》

- ① 「日本」「天皇」の呼称【外交・文化交流】
- ② 時計・暦【水時計（漏刻）、勤務時間など】
- ③ 官僚制度・国政機関【役所組織（宮内省・大蔵省等）の成立】
- ④ 中央と地方の行政区画【畿内・京・国・評郡など】
- ⑤ 戸籍制度・住居表示【木簡・庚午年籍】
- ⑥ 納税制度【租・庸・調、各地からの特産品・漆など】
- ⑦ 貨幣経済のはじまり【富本銭・和同開珎の鑄造】
- ⑧ 仏教興隆【飛鳥寺の造営（国際総合センター）】
- ⑨ 交通路・都市計画【藤原京（新益宮）・横大路などの整備】
- ⑩ 歴史書・文学【日本書紀・古事記の編纂、万葉集など】



明日香村埋蔵文化財展示室内部
(リニューアル後)



明日香村埋蔵文化財展示室内部
(リニューアル前)

【展示ケース概要】

ここでは各展示ケースの概要について説明を行う（カッコ内は飛鳥から始まった主な制度）。

1、第1展示・飛鳥前史コーナー

飛鳥時代よりも以前に、飛鳥川流域で生活の営みをはじめた縄文時代から古墳時代にかけて、狩猟に使われた石器や土器などを中心に原始人の生活の紹介を行う。

《主な展示遺物：大官大寺下層縄文土器、島庄遺跡出土弥生土器・石器など》

2、第2展示・飛鳥時代通史コーナー

飛鳥時代約100年間を絵年表で表し、飛鳥時代の大きな画期となった乙巳の変・白村江の戦い・壬申の乱の写真パネルと飛鳥時代に活躍した蘇我馬子や中大兄皇子、斉明や天武天皇など主な人物の紹介を行う。

3、第3展示・宮殿コーナー ①

飛鳥時代の日本国誕生に迫る上で政治の中心地であった宮殿についてその変遷や都で使用されていた土器等を展示して宮殿の紹介を行う。

《主な展示遺物：西橋遺跡出土須恵器・土師器、飛鳥池出土天皇木簡（レプリカ）》

4、第4展示 暦・都市計画等コーナー ②・⑨

飛鳥時代の迎賓館の石神遺跡や漏刻の水落遺跡、天皇祭祀の酒船石遺跡などを取り上げ、飛鳥の都造りや交通路の整備などの紹介を行う。

《主な展示遺物：石神遺跡出土具注暦木簡（レプリカ）・新羅産土器、酒船石遺跡砂岩石垣等》

5、第5展示 戸籍・税制等コーナー ③・④・⑤・⑥

出土した木簡を通じて戸籍や官人の勤務、税制度を紹介し、都人の暮らしの紹介を行う。

《主な展示遺物：酒船石遺跡出土木簡（帳簿木簡・荷札木簡など）、飛鳥京跡出土漆壺など》

6、第6展示 工房・貨幣経済コーナー ⑦・⑨

村内の工房遺跡から出土した遺物を展示して工房の実態についての紹介を行う。

《主な展示遺物：富本銭（レプリカ）・檜隈寺周辺出土鞆羽口、埴塙など》

7、第7展示 小治田宮コーナー ①・⑨

雷丘東方遺跡出土の墨書土器を中心に奈良時代の小治田宮の実態についての紹介を行う。

《主な展示遺物：雷丘東方遺跡出土墨書土器など》

8、第8展示 飛鳥寺西方遺跡コーナー ⑨

飛鳥寺の西方に広がる飛鳥寺西方遺跡から出土した土管を展示。飛鳥時代の都市計画の一環として埋設された上下水用と考えられる土管から飛鳥の都づくりの紹介を行う。

《主な展示遺物：飛鳥寺西方遺跡出土土管》

9、第9展示 仏教興隆コーナー ⑧

我が国最初に造営された飛鳥寺について蘇我氏の氏寺として瓦や埴などから飛鳥の仏教文化の紹介を行う。

《主な展示遺物：飛鳥寺出土軒平瓦・軒丸瓦・鴟尾・埴など》

10、第10展示 仏教興隆コーナー ⑧

大王家の官寺として造営された川原寺を取り上げ、川原寺裏山遺跡出土の埴仏や塑像など展示して当時の仏教文化の内部荘厳などの紹介を行う。

《主な展示遺物：川原寺裏山遺跡出土埴仏・塑像・鉄製品など》

11、第11展示 古墳（奥津城）コーナー

八釣・東山古墳群など飛鳥の豪族の墓についての紹介を行う。

《主な展示遺物：八釣マキト古墳出土馬具・土師器・須恵器・装身具・鉄製品など》

12、第12展示 古墳（奥津城）コーナー ①

真弓籙子塚古墳やカヅマヤマ古墳など飛鳥の渡来系氏族の墓についての紹介を行う。

《主な展示遺物：真弓籙子塚古墳出土獣面飾金具、板状土製品、カヅマヤマ古墳出土磚、真弓テラノマエ古墳出土漆喰付着平瓦、阿部山遺跡群出土ミニチュア炊飯具など》

13、第13展示 古墳（奥津城コーナー）①

八角墳の牽牛子塚古墳と越塚御門古墳など飛鳥の大王墓についての紹介を行う。

《主な展示遺物：牽牛子塚古墳出土七宝飾金具・夾紵棺・ガラス玉・凝灰岩切石、越塚御門古墳出土鉄製品など》

14、第14展示 古墳（奥津城コーナー）①・②

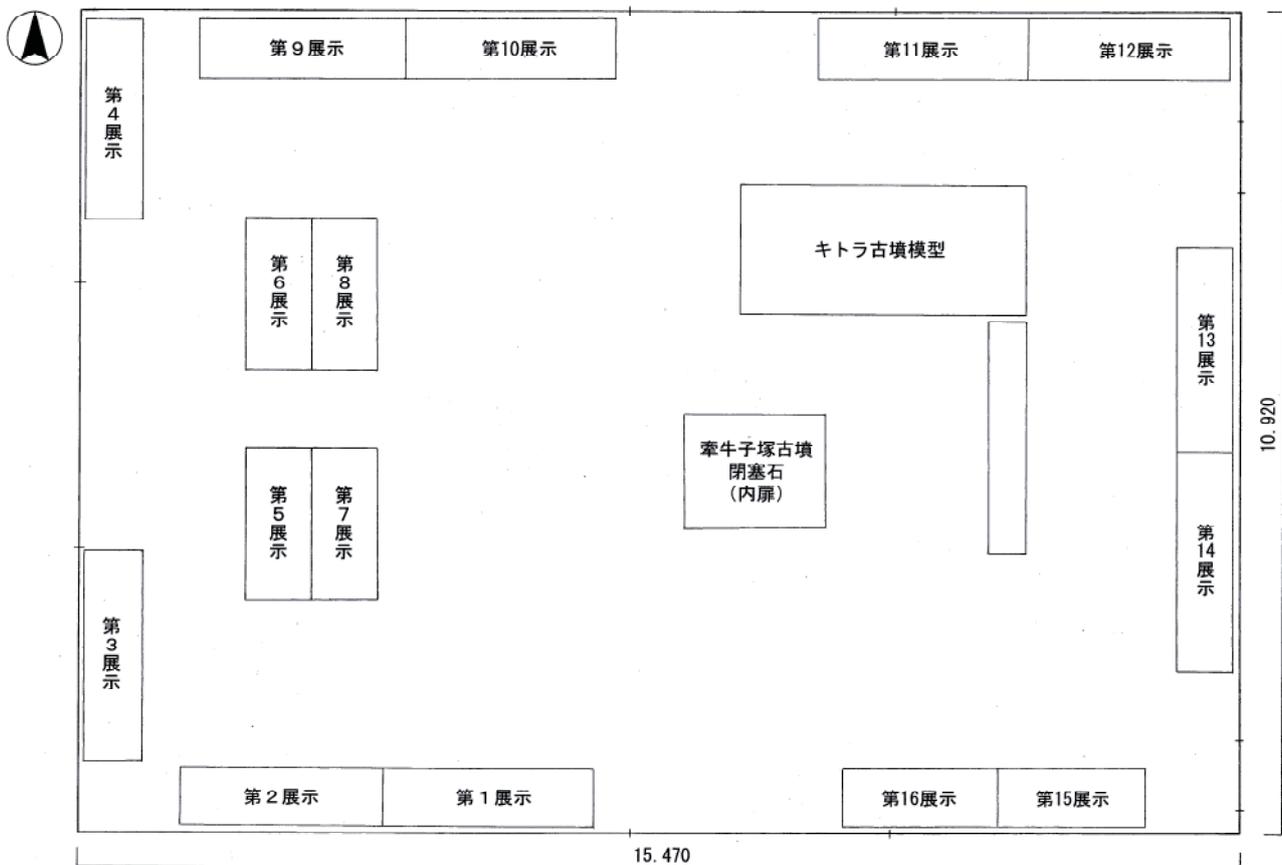
マルコ山古墳や高松塚古墳、キトラ古墳などの凝灰岩製の組合せ式横口式石槨墳を取り上げ、さらにキトラ古墳の天文図と淳祐天文図を展示して東アジアの星空についても紹介を行う。

《主な展示遺物：マルコ山古墳出土漆塗木棺、高松塚古墳出土海獣葡萄鏡（レプリカ）、キトラ古墳出土刀身など》

15、第15展示 記紀万葉コーナー ①・⑩

我が国最初の正史『日本書紀』を展示・紹介を行う。

《主な展示資料：『日本書紀』（江戸時代版本）》



明日香村埋蔵文化財展示室配置図

16、第16展示 紀記万葉コーナー (⑩)

我が国現存最古の和歌集である『万葉集』と万葉木簡について紹介を行う。

《主な展示資料：『万葉集』（西本願寺本）、石神遺跡出土万葉木簡》

【その他】

- 1、キトラ古墳実物大模型（棺台と漆塗木棺（レプリカ）
- 2、牽牛子塚古墳閉塞石・内扉（凝灰岩製）
- 3、龍福寺石塔（実物大レプリカ）
- 4、吉備姫王墓猿石（レプリカ）
- 5、石神遺跡出土石人像（レプリカ）
- 6、幢幡
- 7、甘樫丘から望む 360° パノラマ写真など

これら以外にも各展示ケースの前にそれぞれのテーマに応じた出来事や遺物、用語等をわかりやすく簡潔にまとめた「ミニ解説」を設置しており、展示内容をより詳しく知りたいという来訪者の利便性を高め、好評を得ている。展示については平成26年1月18日現在のもので、今後随時展示替えを行う予定である。



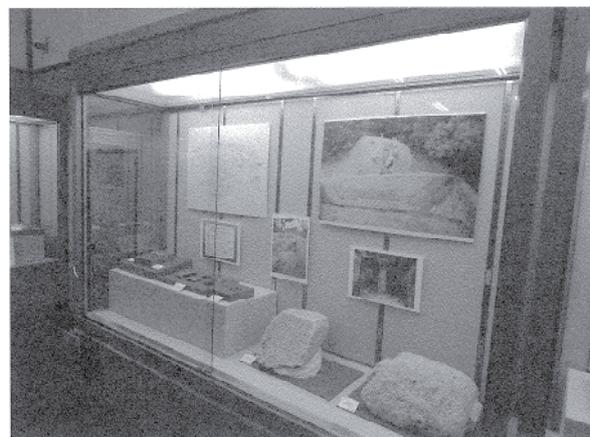
第2展示



第4展示



第10展示



第13展示

明日香村埋蔵文化財展示室施設概要

施設の概要

開所年月日	平成11年2月26日(金)
展示室床面積	168㎡
研修室床面積	79㎡
開館時間	午前9時から午後5時
休館日	年末年始
入館料	無料
その他	土日祝祭日はボランティアガイドによる展示解説がある。

所在地

〒634-0103

奈良県高市郡明日香村大字飛鳥112番地

TEL 0744-54-5600 FAX 0744-54-5600

今回、明日香村埋蔵文化財展示室のリニューアルに伴い、多くの方々から多大なるご尽力を賜りました。ここにご芳名を記し、感謝の意を表します。(五十音・敬称略)

相原嘉之、赤松一竜、石立弥生子、石橋茂登、伊藤順次、井上直夫、上田裕人、上田小也香、浦野喜徳、大植理史、大谷照子、熊博毅、北嶋未貴、杉本嘉久、辰巳俊輔、辰巳和余、田中文男、田中祐二、玉田芳英、塚本和人、辻本あらた、霧谷かおり、成田聖、丹羽崇史、長谷川透、馬場秀司、早川和子、平野昌雄、藤井陽輔、藤田尚、降幡順子、松村恵司、美濃久美子、森先一貴、吉岡佐和子、米田文孝、山口卓也、若杉智宏